

はじめに

明けましておめでとございませう。本年もどうぞよろしくお願いたします。関東地方の正月は風が強いものの快晴で、明らかに以前より華やかさはありませんでしたが、のどかな三が日でした。それにしては最近凶悪事件が後を絶ちません。喧嘩口論の末とか金品目的とか、本当に人があつという間に人を殺してしまします。今の時代、都市とか会社とか家族とか、人と人が接して暮らしているところには大きなストレスが生まれ、そのストレスがどんどん人をおかしくしていきます。それもこれも自分さえ良ければという風潮が生んだ結末ではないでしょうか。21世紀に向けた展望は目の前の問題の解決からではなくて、人間や世の中の根本的な問題の解決から生まれるはず。20世紀と同じく、新世紀の初頭は古い常識で押し通そうとする動きが依然として主流で、その中で時代に合わないところがいろいろ出てくるはずであり、そのほころびの中に新しい時代の潮流が見え隠れするはず。ですからこれから5年から10年は新しい潮流を確かめるために世の中を注意深く観察し、歴史の流れ

を意識しながら21世紀がどうなるかを考えていくべきと

きです。日本はおそらくこのままひどい不況に突入してこれから大騒ぎになると思います。そのなかで大量の失業者が出たり、金融システムの破綻が起きたり、激しいインフレが起きたり、キャッシュフローがショートして政府の機能が止まり、公務員の大量解雇をしなければならぬといった事態が起きるでしょう。そしてもし米国のブッシュ政権が中東で戦争をするというようなことになれば、あるいは中国で動乱が起きて沿岸一帯が海賊や武装難民で危険な状況になればエネルギーや食料の確保もおぼつかなくなりかねないのが今の日本です。20世紀の常識が目に見えて変わり、新しい潮流が見えてくるという事は、具体的にはそういう現象が発生するという

ことでしょう。それはちょうど老朽化した建物を壊して一度更地にすると云うべきか、あるいは今までは林を育てるために下草を刈っていたのが、林を切り倒して新しく苗木から植えるおそうというの、これからの時代に起きる現象ではないかと思ひます。正直に言つてすこい時代に生まれ

合わせたものだと思います。読者諸兄もこれからは何事につけ良く勉強し、勇気を持って自分の進む道を準備し、選択し、実際に歩いていくことが大切です。年齢に関係無く勇気が無いことが一番人生を辛くさせることだと思ひます。今年もがんばつて、みんなで力を合わせてこの大変な時代を生きていきましょう。

今週の論説

アジアは一から出直し

結局昨年のナスダック株

市場は年間で39%の下落で

史上最大の下落率となりまし

た。年初がIT関連株急上昇

でとても華やいだ雰囲気だっ

たのとは対照的に、今年2

月の21世紀最初の取引日に

7%以上の下落となり、引き

続き今年も株価下落が続きそ

うな気配です。それにしても

昨年はどの国もよく株価が下

降しました。日経平均は27%、シンガポールが22%、韓国が51%、台湾とタイが44%、インドネシアが39%の下落といった具合で、97年のアジア危機に続いて再び昨年はアジア経済に大きな暗雲が垂れ込めた格好になりました。結局アジア危機の混乱の中から次は若い世代だ、既成の世の中の枠組みから抜け出す時代だ、株式の時代だ、ITの時代だということ、みんなその方向へと走り出し、結局みんなまとめて足をすくわれてしまいまし

た。97年の危機と違って急激に問題が露見して大騒ぎになるということがなかった。それで日本から見るとあまり目立ちませんでした。アジアの21世紀を考えると、問題は97年の危機以上に深刻です。なぜならば、アジアはとりあえずやるべきことをやり尽くしてしまつた感があるからです。97年の危機で破綻した古い体制が復活することはありえませんが、しかし一方で新しい時代はこちらだといつて若い人を中心に駆け出しつていった先は行き止まり。古いアジアに愛想を尽かして、欧米に飛び出していった人たちが向こうで仕込んできた新しいやり方と新しい商売ネタが機能しなくなつてしまつたわけ。シンガポールのリークワンユー上級相がいつも言うような、米国には気をつけるという言葉が身にしみるアジアになつてしまつたわけ。

振り返ればアジア各国は20世紀に欧米の植民地支配を受け、戦後それぞれ独立国家になつた後も冷戦構造の中に組み込まれて、長らく抑圧の中で暮らしてきまし

た。それが87年に日本が円高になつたところから日本の輸出代替といふことで景気が良くなり始め、冷戦が終わ

り、中国が改革開放路線を明確にし、さらにクリントン大

統領が米中蜜月を演出する中でアジア経済は平和と安定の中に未曾有の好況を迎えました。ところがそれが97年のアジア危機で一度破綻すると、今度は次の時代を担う優秀な若者がITへと殺到し、つかの間のブームを作り出しました。韓国などもインターネットでは日本を抜いたといふことで昨年前半は大変な熱気に包まれて

いきましたが、株価が1年で半値になる様子を見ればわかるように、状況はだいぶ変わつてきています。今世界ではIT革命の進展で中流階級の崩壊して上流と下流への2極文化が激しく起きているといわれますが、国レベルで言つたらまさに世界の

中流の仲間入りをしたアジア諸国はこれから予定どおり上へ上がるのか、あるいはここでまた下に落ちてしまつたのか、大変な瀬戸際に立たされることになつたのだと思ひます。

でも、こうなつたらアジアに残された道はひとつしかありません。自分たちの未来を自分たちの手で作つていくことです。欧米や日本に頼らずにもつと根本的に自分たち固有の文化や価値観を大切にして、自分たちが無理なく生きていくことができ

る社会を作っていくべきです。欧米や日本にそこが冷遇され、貧富の格差の拡大となつて多大な怨念を生ん

・赤坂オーブンランチは1月15日、29日(月)、午前11時半から赤坂のイタリアレ스토랑・グラナータにて、会費5千円(当日会場で申し受けます)です。
・藤原直哉が企業向けにビジネス・コンサルティング、社内教育のお手伝いをしております。ご関心をお持ちの方は資料請求をお願いいたします。
・ワールドレポートはPDFファイルを使って電子メールでも送信しております。電子メール送信切り替えご希望の方は fujiwara@fujiwaraoffice.co.jp宛資料請求してください。

